

令和4年度事業計画

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町7番地2

目 次

はじめに

I 囲碁普及事業（公益目的事業）

- 1 棋戦事業
- 2 棋士育成事業
- 3 囲碁対局環境の提供
- 4 囲碁普及と囲碁指導
 - 4-1 青少年等への囲碁普及
 - 4-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 4-3 海外への囲碁普及
- 5 段級位認定
- 6 囲碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 アマチュア国際大会への参加等
- 7 表彰
- 8 囲碁関係情報提供
- 9 囲碁殿堂資料館
- 10 各拠点での活動
 - 10-1 有楽町囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部

II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
- 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
- 3 販売品、書籍事業（収益事業3）

III 管理部門

- 1 コンプライアンス
- 2 受取寄付金の維持拡大と有効活用
- 3 「創立100周年事業」に向けて

はじめに

日本棋院は、日本の伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供などの事業を国内外で実施する。

令和4年度における事業計画及び予算は次の通りとする。

I 囲碁普及事業（公益目的事業）

1 棋戦事業

棋戦は、囲碁の歴史を創造する場であり、棋道の研鑽と発達に重要な役割を果たしている。棋戦の様子は、新聞での速報や囲碁欄での観戦記の掲載をはじめ、テレビやインターネットで中継され、全国の囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化の振興に寄与している。

また、地方で開催される挑戦手合や棋戦では、棋士と地元の囲碁愛好者や子どもたちの交流の場として、対局を直に見る機会を設けるほか、解説会や指導碁など、ファンイベントを同時に開催する。海外棋戦やインターネット棋戦などを含めた令和4年度予定の棋戦の概要は以下の通りである。

（1） 棋聖戦（第47期 読売新聞社）

予選：アマチュア4名を含む全棋士が参加する、ファーストトーナメント予選を実施し、勝ち上がり16名がCリーグに出場する。

リーグ戦：上位から順にSリーグ（6名）、Aリーグ（8名）、Bリーグ（8名×2組）、Cリーグ（32名の変則リーグ）を行い、各リーグの優勝者がパラマス方式による挑戦者決定トーナメントを行う。各リーグの上位2から6名は上位リーグに昇格し、逆に各リーグの下位2から6名は下位リーグに降格する。

挑戦手合：七番勝負（4勝先取）を実施し棋聖位を決定。敗者は次期Sリーグ戦から出場。

（2） 名人戦（第47期 朝日新聞社）

予選：全棋士が参加し、4段階の予選を行い、リーグ入り（3枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：9人による総当たり戦を実施し第1位者が挑戦者になる。上位6名が残留、3名が陥落（次期最終予選からの出場）。

挑戦手合：七番勝負（4勝先取）を実施し名人位を決定。敗者は次期リーグ戦から出場

（3） 本因坊戦（第77期 毎日新聞社）

予選：全棋士が参加し、4段階の予選を行い、リーグ入り（4枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：8人による総当たり戦を実施し第1位者が挑戦者になる。上位4名はリーグ残留、リーグ陥落者4名は次期最終予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負（4勝先取）を実施し本因坊を決定。敗者は次期リーグ戦から出場。

(4) 王座戦 (第 70 期 日本経済新聞社)

予 選：全棋士が参加し、本戦出場の枠をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：シード棋士 (前期決勝進出者 2 名とタイトルホルダー) が加わり 16 名が王座への挑戦権をかけた本戦トーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負 (3 勝先取) を実施し王座位を決定。敗者は次期本戦から出場。

(5) 天元戦 (第 48 期 新聞三社連合)

予 選：全棋士が参加し、本戦出場 28 名 + α をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：シード棋士 (前期準決勝進出者 4 名とタイトルホルダー) が加わり天元への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負 (3 勝先取) を実施し天元位を決定。敗者は次期本戦から出場。

(6) 碁聖戦 (第 47 期 新聞囲碁連盟)

予 選：全棋士が参加し、本戦出場 24 名 + α をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：シード棋士 (前期準決勝進出者 4 名とタイトルホルダー) が加わり碁聖への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負 (3 勝先取) を実施し碁聖位を決定。敗者は次期本戦から出場。

(7) 十段戦 (第 61 期 産経新聞社)

予 選：全棋士が参加し、本戦出場 16 枠をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：シード棋士 (前期準決勝進出者 4 名) を加えた 20 名で十段への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負 (3 勝先取) を実施し十段位を決定。敗者は次期本戦から出場。

(8) 阿含・桐山杯全日本早碁オープン戦 (第 29 期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)

アマチュア 8 名を含む全棋士で予選を行う。前期優勝者と予選通過者、タイトル保持者の計 16 名で本戦トーナメントを実施し、優勝者を決定する (決勝戦は京都開催)。

(9) 阿含・桐山杯日中決戦 (第 23 期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)

日本と中国の桐山杯優勝者が両国交互で日中決戦を実施し、優勝者を決定。第 23 期は、日本で開催の予定。

(10) 新人王戦 (第 47 期 しんぶん赤旗)

25 歳以下の初段から六段までの棋士で予選を行い、33 名によるトーナメント戦を実施する。決勝戦は三番勝負で優勝者を決定。

(11) NHK 杯テレビ囲碁トーナメント戦 (第 70 回 NHK)

選抜棋士 50 人によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定する。

(12) 竜星戦 (第 31 期 囲碁将棋チャンネル)

予 選：全棋士が参加し、本戦出場 96 名をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦：96 名を 8 組に分け勝ち抜き戦の後 16 名による決勝トーナメント戦を実施し優勝者を決定。CS 放送 (囲碁・将棋チャンネル) で放映。

(13) 日中韓竜星戦 (第 2 回 囲碁将棋チャンネル)

日本と中国、韓国の竜星戦優勝者が変則トーナメントで優勝者を決定。第 2 回は中国で開

催の予定。

(14) 新竜星戦 (第1回 囲碁将棋チャンネル)

竜星戦決勝トーナメント進出者 (16名) ほか、32名によるトーナメント戦。早碁 (フィッシャー方式) での実施。決勝戦は3番勝負。

(15) グロービス杯 世界囲碁U-20 (第9回 グロービス)

日本6名、中国3名、韓国3名、中華台北1名、欧州1名、北米1名、アジア1名の、20歳未満の16名によるトーナメント戦をネット対局で実施し、優勝者を決定。

(16) 女流本因坊戦 (第41期 共同通信社)

本戦：予選の勝ち上がりと前期ベスト4、女流タイトルホルダー24名によるトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負 (3勝先取) を実施し女流本因坊位を決定。

(17) 博多・カマチ杯女流名人戦 (第34期 巨樹の会 トータル・メディカルサービス
メディカルテンドー)

予選：全棋士が参加し、3段階の予選を行い、リーグ入り (3枠) をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：7人による総当たり戦を実施し第1位者が挑戦者になる。上位4名はリーグ残留、リーグ陥落者3名は次期予選Aからの出場。

挑戦手合：三番勝負 (2勝先取) を実施し女流名人を決定。敗者は次期リーグ戦から出場。

(18) 会津中央病院・女流立葵杯 (第9期 温知会)

本戦：予選の勝ち上がり、女流タイトルホルダー8名によるトーナメント戦を実施。

挑戦手合：三番勝負 (2勝先勝) を実施し、女流立葵杯を決定。

(19) 女流棋聖戦 (第26期 NTTドコモ)

本戦：予選の勝ち上がり、前期挑戦手合敗者、女流タイトルホルダーの16名によるトーナメント戦。

挑戦手合：三番勝負 (2勝先取) を実施し女流棋聖位を決定。なお、本戦と

挑戦手合はCS放送 (囲碁・将棋チャンネル) で放映。

(20) 扇興杯女流囲碁最強戦 (第7回 センコーグループホールディングス)

予選勝ち上がり者と前回優勝者、準優勝者、女流タイトルホルダー16名によるトーナメント戦。準決勝、決勝戦は滋賀県近江市で開催し優勝者を決定。

(21) テイケイ杯俊英戦 レジェンド戦 女流レジェンド戦 (第2回 テイケイ)

<俊英戦> 予選勝ち上がり者12名を6名ずつの2つのリーグに分け、リーグ優勝者による決勝三番勝負を実施し、優勝者を決定。

<レジェンド戦> 60歳以上の棋士の予選勝ち上がり者、名誉タイトル保持者、女流レジェンド戦準決勝進出者による17名のトーナメント戦。

<女流レジェンド戦> 45歳以上の女流タイトル獲得者に予選勝ち上がり者による13名のトーナメント戦。

(22) 王冠戦 (第63期 中日新聞社)

中部総本部所属の棋士で予選を行い12名によるトーナメント戦。優勝者が挑戦手合一番

勝負に出場。

(23) 広島アルミ杯・若鯉戦（第17回 広島アルミニウム工業）

30歳以下、七段以下の棋士で予選を行い、16名（前期優勝者、準優勝者はシード）によるトーナメント戦。本戦は広島で開催し、優勝者を決定。

(24) SGW杯中庸戦（第5回 セントグランデW）

日本棋院所属の31歳以上60歳以下でかつ七大棋戦、竜星戦、阿含・桐山杯の優勝経験がない棋士が参加し、優勝者を定める。

(25) SENKO CUP ワールド碁女流最強戦（センコーグループホールディングスほか）

日本、中国、韓国、中華台北のトップ棋士8名による女流世界1位決定戦。

コロナ禍のため、ネット対局で実施。

(26) 海外棋戦

① LG杯、三星火災杯、農心杯、国手山脈杯（以上、韓国主催）、春蘭杯、夢百合杯、呉清源杯、乙級リーグ（以上、中国主催）等の海外棋戦に参戦する。

② 海外棋戦の参戦にあたっては、「GO・碁・ジャパン」ナショナルチームのメンバーを再編成するとともに、ナショナルチーム応援募金によるさらなるチーム強化等を図り、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すこととする。

本チームは、監督、コーチ並びに賞金ランキング上位者、海外棋戦における成績優秀者、新人王等、及び女流棋士ランキング上位者の中から選出される代表選手により編成する。

2 棋士育成事業

棋士をめざす青少年の養成機関として引き続きコロナウイルス感染予防や体調管理を徹底しながら院生研修を実施するとともに、海外棋戦での活躍に向けて若手棋士の育成を行う。

(1) 院生研修・棋士採用

毎週土曜・日曜（月8回）、院生研修を実施する。棋士師範の指導のもと、クラス別のリーグ戦で対局し、毎月の成績によりクラスの昇降級を行う。この院生研修の成績上位者と外来受験者合わせて行われる棋士採用試験を実施する。

指導の点については院生研修日に師範による解説と検討指導を実施、ネット対局「幽玄の間」において、囲碁AIによる院生ネット指導を行う。また、伝統文化としての棋道を担う棋士育成のため、社会人として必要な公序良俗の観念を習得してもらうよう指導を行う。

女流棋士の拡充のために平成30年度に新設した「女流特別推薦採用棋士」は本年度も引き続き門戸を開く。仲邑菫初段（当時）が入段するときに新設された「英才特別採用推薦棋士」については、本制度に該当する有望な少年・少女を発掘するよう広く情報を集める。

(2) 若手棋士育成

「GO・碁・ジャパン」メンバーの若手棋士には、海外棋戦へ挑戦させ、海外対局感覚を身につけるとともに、棋力向上の取り組みを行う。また、ナショナルチームの所属棋士とU20棋士による棋力強化対局をネット対局「幽玄の間」を利用して実施する。

3 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設においてお客様対局場を開設する他、ネット対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に寄与する。

(1) お客様対局室の開設

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設において、お客様対局場を開設し、お客様同士で自由に囲碁の対局が行えるほか、相手のいないお客様には、日本棋院が相手を見つけて、組み合わせ対局を行う。また、入門者向けコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供する。

(2) ネット対局サイト「幽玄の間」

あらゆる世代・世界の囲碁愛好者が、パソコン及びスマートフォン・タブレット上で手軽に対局を楽しめる環境を提供する。魅力あるサービスを展開し、囲碁普及における中核的な事業として強化していく。

2017年より導入している対戦用AIのバリエーション増やし、ユーザーの対局機会の増加を図った。

(3) 貸室・囲碁用品の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー等の開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供するほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等の利用に応じる。

(4) 海外囲碁センターの支援

北米、南米それぞれに保有する囲碁センターについてシアトル碁センター（アメリカ・シアトル）南米本部（ブラジル・サンパウロ）は、引き続き現地の囲碁普及団体に囲碁センターの運営を委ね、現地の囲碁普及活動を支援する。

4 囲碁普及と囲碁指導

囲碁は、集中力・認識力・想像力・コミュニケーション力の向上に優れ、自由な発想と創造性を育むとともに、脳の活性化や生きがいの形成、人と人とのふれあいなどにも大いに役立つことが福祉、医学、教育界等で認知されてきている。

また、「囲碁と脳に関する研究」（東北大学）でも「囲碁は、子供の自己抑制力を伸ばす」ことが明らかとなっている。

囲碁の素晴らしさを幅広い世代へ伝えるため、今後もさらに普及活動を推進する。また、すべての囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化を普及するため、棋士による指導のほか、囲碁普及指導員、地元ボランティアによる囲碁指導を全国で展開する。

4-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全育成に寄与し、学校教育に役立つことへの理解を求めため、地方自治体や学校等と協力体制をとり、地域に密着した囲碁普及事業を広く展開する。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

① 全国の小・中学校で入門囲碁体験教室を開催

棋士等を派遣し指導を行う。また、現地での継続的な開催を支援する。

② ジュニア教室の開催

東京本院、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じた教室を開催する。

③ 「入門・初心者会員」及び新しい囲碁入門アプリの導入によりさらなる普及の拡大を図る。

(2) 学校教育への囲碁導入

① 「総合学習」伝統文化体験学習の枠を使った正課授業及び部活動等への囲碁導入の支援を行う。

② 学校囲碁指導員講習会の実施による拡充及び指導員養成を行う。

③ 文部科学省「放課後子どもプラン」の中での囲碁導入推進を行う。

④ 高等学校に於ける日本の伝統・文化としての囲碁の授業の導入推進を行う。

⑤ 「がっこう囲碁普及基金」を有効活用し、学校教育への導入の際の棋士または指導員の派遣、用具支援を行う。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、日本棋院東京本院において学校囲碁指導員講習会を開催する。

(4) 大学での囲碁授業の展開

① 2021年度の大学の囲碁授業は対面授業とオンライン授業を併用して行われた。様々な制約が多い中、35大学で授業を行った。今後、40大学を目標に開講促進の活動を実施する。

② 大学での囲碁授業の講師として棋士を派遣するとともに、囲碁授業を円滑に実施するため、講師役の棋士への研修を実施する等支援を行う。

(5) 「がっこう囲碁普及基金」の拡大

幼稚園・保育園から小・中・高校、大学への囲碁授業・講座（正課・非正課授業等）の促進に活動支援を目的とした「がっこう囲碁普及基金」基金（平成27年4月開始）の維持と拡大を行う。

(6) 法人賛助会員の維持・拡大

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただくもので、子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等に有効に活用しており、会員の維持・拡大を行う。

4-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

囲碁の素晴らしさを伝え、囲碁を知らない方への入門指導、囲碁愛好者の棋力向上に向けた指導を行い、囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承する。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施する。また、2020年10月よりスタートしたオンライン講座を拡充し、地方在住の愛好者に向けた指導の充実を図る。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門

者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努める。

(3) ネット指導碁

日本棋院が運営するネット対局サイト「幽玄の間」上で棋士による指導碁を実施している。遠隔地にお住まいの囲碁ファンも気軽に指導碁を受けられる。

(4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士の派遣を行う。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行う。

令和3年度の棋士派遣は、新型コロナウイルス感染の影響により上期はほとんどが中止となったが、下期には派遣を再開している。令和4年度は約300件を見込んでいる。

(5) 囲碁未来教室の開催

雑誌「囲碁未来」が令和3年2月で休刊となったため、テキストとして入門・級位者向け書籍を利用して教室運営をするように促している。今後は教室名についても検討を行う。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、各県本部・県支部連合会の協力を得て、棋士を派遣し、囲碁愛好者と棋士の交流を深める。棋士派遣を通して囲碁人口の拡大、個人・支部会員等の維持拡大を図る。

また、入門者・初心者を対象とした会員拡大キャンペーンを実施し、さらなる個人・支部会員等の維持拡大を図る。

① 個人、支部会員の維持・拡大

② 法人会員の維持・拡大

③ 支部の活性化

囲碁普及と各地の囲碁愛好者の棋力向上を目指し、支部代表者懇談会を全国8カ所で開催する。現地の要望、提案等意見交換を行うとともに、地域の「絆を作りだす力」としてのコミュニティづくりとしても支部活動を強化していく。

また、令和2年度より棋士派遣を受けやすくする制度を導入し、全国の支部に活用いただけるように働きかけている。

4-3 海外への囲碁普及

文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介するとともに、マインドスポーツの一つとして、他国の囲碁団体と協調し、囲碁人口の拡大を図り、現地囲碁愛好者の棋力向上に寄与する。

(1) 国際囲碁連盟（IGF）との連携

日本棋院は、国際囲碁連盟（IGF）と連携し、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁界の組織化に努める。

(2) 三カ国首脳会議

世界の囲碁界をけん引する日本棋院、中国囲碁協会、韓国棋院の三カ国の代表が出席して本会議を行う。将来にわたり世界中に囲碁を大きく発展させ、広く振興するため、三カ国が協力・連携・努力を行う。

(3) 海外棋士派遣

新型コロナウイルスの感染状況等を鑑み、各官公庁・民間団体等の支援を得て、海外に棋士を派遣し、囲碁文化の紹介と入門指導や現地囲碁ファンへの講座を行うなど、囲碁文化普及と棋力向上に努める。

○アメリカへの棋士派遣（アメリカ碁コンGRESS開催地等）

○ヨーロッパへの棋士派遣（ヨーロッパ碁コンGRESS開催地等）

（4） オンライン事業

岩本北米囲碁基金の支援プログラム等を活用し、世界の囲碁普及を促進する様々なオンラインコンテンツ、動画配信（英語による棋士のオンライン講義等）を提供する。

（5） サマー碁キャンプ

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより2年連続、サマー碁キャンプ等のインバウンド事業の中止を余儀なくされたが、世界の感染状況等を鑑みて、3年ぶりにオンラインとオフラインによる「サマー碁キャンプ」の開催を目指し、海外の愛棋家に囲碁の伝統をはぐくんできた日本の囲碁と文化を学ぶ機会を提供する。

（6） 岩本ヨーロッパ囲碁基金の創設

ヨーロッパの囲碁普及を推進するため、欧州囲碁連盟との共同で、岩本ヨーロッパ囲碁基金を創設する。基金を活用して、ヨーロッパの囲碁普及をより一層進めていく。

（7） （一社）全日本囲碁連合(JGOF)と2022年アジア競技大会

囲碁競技の進化と国際的発展を推進し、囲碁を通じて国際的友好親善に貢献するとともに、日本を代表する選手等の育成強化を図り、世界の囲碁の振興に寄与することを目的として、2019年10月に（公財）日本ペア碁協会、（一財）関西棋院、（公財）日本棋院の3団体により全日本囲碁連合が発足した。

囲碁が2022年アジア競技大会（中国・杭州）の正式種目に選ばれ、全日本囲碁連合の日本オリンピック委員会(JOC)への加盟、及びメダル獲得のため、国内トップ選手の派遣を目指す。

5 段級位認定

段級位の認定は棋力の証明となるもので、対局を行う際にはハンディキャップを付与することで、棋力の差がある者同士の対局でも公平に勝敗を競うことが可能となる。

（1） 段級位認定大会

今年度も全国各地で認定大会を開催する。

（2） 紙上認定

日本棋院発行の月刊碁ワールド、週刊碁、ホームページ、そのほか一般紙に認定問題を掲載し、段級位認定を行う。1回の認定で段級位を申請できる認定問題の配布を2回実施する。

（3） インターネット認定

ネット対局「幽玄の間」を活用した、レーティングポイントによる段級位認定を行う。

6 囲碁大会の開催

各都道府県において、現地の囲碁愛好者が運営する日本棋院県本部あるいは県支部連合会

と連携し、日本棋院が認可した全国 500 余りの支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行う。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

昨年度は、高校生以下を対象とする 4 大会のうち 3 大会を開催した。本年度も感染拡大防止策を講じて、可能な限り実施する。各都道府県や団体が開催する子ども大会への協力・後援についても柔軟に対応する。

(1) 第 46 回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

8 月 3、4、5 日の 3 日間、日本棋院東京本院にて全国大会を開催予定。男子団体戦、女子団体戦、男子個人戦、女子個人戦に延べ 500 名が参加する。地方大会においても、各都道府県の実情にあった大会の形を模索、囲碁を愛好する青少年が大会出場の機会を失うことの無いよう努力する。〈公益財団法人 J K A の青少年健全育成補助（予定）〉

(2) 第 19 回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

全国から小学校 64 校、中学校 64 校が集まる 3 名 1 チームの団体戦。参加選手数が多いため、会場となる日本棋院東京本院では十分な対局環境が確保できない。昨年度に引き続き、本年度も本大会の実施は見合わせる予定となっている。

(3) 第 43 回 文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

8 月 19、20 日の 2 日間、日本棋院東京本院にて全国大会を開催予定。小学生の部、中学生の部に各 100 名の都道府県代表選手が出場する。十分な感染対策を講じながら実施。地方大会においては都道府県ごとに実情に沿った大会の形を模索、囲碁を愛好する青少年が大会出場の機会を失うことの無いよう努力する。

〈公益財団法人 J K A の青少年健全育成補助（予定）〉

(4) 第 12 回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

12 月 17、18 日の 2 日間、岡山県倉敷市において全国大会を開催予定。都道府県大会で選抜された小学生低学年の部 48 名、小学生高学年の部 48 名の計 96 名がこども棋聖の称号をかけて競う。倉敷市・読売新聞社との共催。

(5) その他の大会の開催

ジュニア囲碁パーク、千代田区こども囲碁大会、ジュニア囲碁フェスティバル、ジュニア囲碁大会、ロッテこども囲碁大会などを、感染対策を施しながら実施する。

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会、地域独自の大会を開催予定。今年度の主な大会は以下の通り。

(1) 第 15 回宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦

級位戦から名人戦まで 9 クラスでチャンピオンを決める成人対象の大会。全国 12 都市での地方大会と、地方大会優勝者による全国大会を実施しており、年間延べ参加人数は 10,000 名を数える。

しかしコロナ以降大規模な大会は中止となっており、今年度も詰碁クイズ等の代替企画、

小規模なお楽しみイベントへの変更となる可能性がある。

(2) 第16回全日本アマチュア名人戦

全国大会は7月2～3日、日本棋院東京本院で行う。都道府県代表とシード計約50名が出場。全国大会優勝者はアマチュア名人との三番勝負に出場する。

(3) 第68回全日本アマチュア本因坊戦

全国大会は8月27～28日、日本棋院東京本院で行う。都道府県代表とシード計64名が出場、アマチュア本因坊の称号をかけて競う。

(4) 第21期アマ竜星戦

囲碁将棋チャンネルとの共催。全国大会は11月26～27日、日本棋院東京本院で行う。都道府県代表とシード選手が出場、優勝者は世界アマ日本代表を兼ねる。

(5) 第60回女流アマ都市対抗戦

アマチュア碁界最大規模の都市対抗戦。女性による1チーム5名の団体戦。全国の各都市持ち回りで開催しており、例年全国から約500名程度が参加しているが、感染防止対策の徹底が困難な規模のため、今年度の開催は状況を見ながら検討する。

(6) 第65回全日本女流アマ選手権戦

各都道府県大会を勝ち上がった選手96名が2023年3月、日本棋院で行われる全国大会で日本一を競う。

(7) 都道府県民まつりの開催

各都道府県の大会・行事の中で開催し、地域間での親睦・交流を深めることを目的に、また、支部の活性化となるよう推進する。

(8) 全国規模イベントへの参加

「全国健康福祉祭＝ねんりんピック」の囲碁大会は、10月13日から神奈川県で開催される。生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として参加、協力を行う。

(9) その他大会等

1月5日を「囲碁の日」とし、東京本院、関西総本部、中部総本部で打ち初め式を開催する。棋士による記念対局や指導碁等、囲碁ファンの交流の場となるように、また棋力向上につながるような催しを実施する。

6-3 アマチュア国際大会への参加等

(1) アマチュア国際大会への参加

- 世界アマチュア囲碁選手権戦（中国）
- ワールドユース囲碁選手権戦
- ハンファ生命杯少年少女囲碁選手権戦（韓国開催）
- 世界大学生囲碁選手権戦
- 韓国首相杯国際アマチュア囲碁選手権戦

(2) 国際交流の支援及び大会の後援・協力

- 国際アマチュア・ペア碁選手権大会

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ表彰する。

(1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ昭和 39 年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰する。

(2) 秀哉賞

二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和 38 年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が嘱望される棋士を表彰する。

(3) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立 80 周年記念事業として、囲碁殿堂資料館の発足とともに創設し、囲碁史上に多大な業績をあげ、現在の囲碁の隆盛に貢献した方を顕彰（殿堂入り）する。

(4) その他

上記の他、棋道賞、普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰、特別功労賞、土川賞等の表彰がある。

8 囲碁関係情報提供

日本の伝統文化である囲碁を次代に継承していくため、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を積極的に発信する。

(1) 雑誌、新聞の発行

① 月刊碁ワールド

月刊誌。毎月 20 日発売。日本棋院会員誌、書店販売。中級者から有段者向け月刊誌として、棋戦解説を中心にグラビア、講座、読み物、海外ニュース、トライアル問題などバラエティーに富んだ内容を掲載する。

② 月刊「囲碁未来」

月刊誌。毎月 5 日発売。日本棋院会員誌。15 級から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための布石、定石の問題、講座、囲碁情報等を掲載する。また囲碁未来教室のテキストとしても活用する。購読者の減少から 2022 年 3 月号をもって休刊。

③ 「週刊碁」

タブロイド紙の新聞。毎週月曜日発売。日本棋院会員紙、駅売りなど。囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座など、幅広い層を意識した多彩な構成とし、国内外の囲碁愛好者へ情報を発信する。

④ 「囲碁年鑑」

月刊碁ワールドの臨時増刊号として 5 月に発行予定。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑などの情報をまとめる。

(2) 電子媒体による情報提供

① 日本棋院ホームページ

最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報、棋士プロフィールなどの囲碁情報はじめ、これから囲碁を始めたい方のための簡単入門ページや日本棋院として取り組んでいる囲碁ナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」、学校囲碁普及事業などの情報を提供している。また、事業計画、報告や定款など公益法人として必要な情報公開を行っている。

② インターネット対局「幽玄の間」

ネット対局「幽玄の間」では、あらゆる世代のあらゆる地域の人たちが囲碁を楽しめるように、次のような環境を提供している。

- ・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップ棋戦の棋譜を配信
- ・ネット対局「幽玄の間」で中継された棋譜のアーカイブ提供
- ・同好会機能による囲碁ファン同士の交流
- ・都道府県対抗戦などのネットによる囲碁大会の開催

③ 情報会員

日本棋院のホームページに付設した情報会員には、主に新棋譜から過去の名局まで、60年近くにわたる、約7万局の棋譜データを提供している。

④ 日本棋院囲碁チャンネル（映像配信）

Google社の提供する映像配信サービス「YouTube」に「日本棋院囲碁チャンネル」を開設、棋戦のライブ中継や情報番組、棋士の情報発信などを行う。

9 囲碁殿堂資料館

平成16年11月15日に開設し、囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介する。また、関連図書、由緒ある囲碁用品展示、歴史に残る名棋譜の展示を行う。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって、本年度の事業計画を策定し、積極的に活動推進する。

10-1 有楽町囲碁センター

有楽町の東京交通会館「有楽町囲碁センター」は、年末年始以外は年中無休で、ファンの方々に対局場のほか段級位認定大会、棋士による指導碁、盤石や囲碁用品、書籍の販売、級位者から有段者までの囲碁学校等のサービスを提供している。

コロナ禍により、2020年6月より時短営業を続けているが、客足は徐々に戻り、コロナ前の6割程度まで売り上げも回復してきた。級位者向けのプログラムの充実を図り、新規顧客の開拓、営業時間外の会場の活用等で活路を見出したい。

10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）と広島、岡山両県を統轄する。普及拠点として「梅田囲碁サロン」及び「茶屋町囲

碁サロン」(会員制)を運営する。

(1) 各種大会の開催及び後援(主なイベントは以下の通り)

- 第10回 阪急納涼囲碁まつり in 大阪
- 夏休み子ども囲碁フェスティバル 2022
- 尼崎こども囲碁本因坊戦 2022
- 第18回寝屋川囲碁将棋まつり
- 比叡山こども囲碁合宿
- 定例段級位認定大会および級位者大会(年各6回)

(2) 各種棋戦の開催(当本部主催の非公式戦)

- 関西オープントーナメント 2022
- 第7回および第8回若竹杯

(3) 会館事業について(梅田囲碁サロン、茶屋町囲碁サロン)

○「梅田囲碁サロン」は昨年5月、梅田駅にさらに至便となる「北阪急ビル」に移転しリニューアルしました。今年は移転1周年を記念したイベント等の開催や記念割引券の配布等を実施しサロンの活性化を図り、快適な環境改善およびサービスを充実させ集客を目指し普及に尽力します。

対局ホールでは従来の一般対局のほか棋士指導碁、級位者そして有段者リーグを開催し、また囲碁教室および入門教室をはじめ法人各種団体への貸席等の勧誘も行い一層の利用促進に努めます。また、販売コーナーでは盤石、囲碁用品そして人気書籍の品揃えを充実させ利用者の希望に応えます。

○「茶屋町囲碁サロン」は《落ち着いた空間でゆっくりと囲碁を楽しんで頂く》をコンセプトとして個人及び法人会員制として大阪茶屋町でサロン運営を行っております。新たな顧客ニーズに対応した洗練されたサロンを目指し普及に努めます。

(3) 関西圏の大学での囲碁講座開設への取り組み

令和3年度に開催された大学での囲碁講座はリモート授業等も含め関西圏で4校開催されました。コロナ禍での各大学の開講対応はそれぞれ違いますが、本年度も引き続き授業開催に向け大学への支援等そして新規講座開設の働き掛けを積極的に行い若者層への普及拡大を図ります。

(4) 小中学校への囲碁普及活動の充実

コロナ禍において新規授業の開設への取り組みは難しいが、市町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら、関西の公立小学校の総合学習の時間、クラブ活動を利用した囲碁授業の導入、また私立の幼稚園、保育所へも定期的な囲碁入門教室の開催が出来るように働きかけを行います。すでに囲碁授業を導入している小学校等への援助、そして各地域の普及指導員への支援等も継続し、関西圏のこども達への普及をより一層拡大するように努めます。

10-3 中部総本部

名古屋に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・富山・石川・福井・静岡県天竜川以西）を統轄する。

- (1) 各種大会の主催等（主なイベントは以下の通り）
 - 東海地区朝日アマ団体十傑戦
 - ジャンボ団体戦
 - 中部こども級位者大会
 - 日経杯新春囲碁大会
 - 愛知県・江蘇省青少年囲碁交流
- (2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）
中日新聞社主催「第 63 期王冠戦」
- (3) 指導碁・囲碁学校・イベント
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて減少していた客足も令和 3 年度第三四半期には、2 年前の来場者数の 90%まで回復しております。
 - 指導碁は、平日 1 名、土・日曜日は 1～2 名の棋士を配し、充実を図り、令和 4 年 4 月より午前の部をスタートさせて、より一層お客様のニーズに応じて参ります。
 - 院内イベントの充実を図る。
 - ・「ゼロから始める 9 路盤」「いよいよ 13 路盤」
 - ・「10 アンダー限定の日」
 - ・「級位者の日」
 - ・「Happy 級位者の日」、「Happy 有段者の日」
 - 入門から初級までの一貫したステップアップ講座、講習会、全 11 コースを開講し、女性及び子供から高齢の方々まで幅広い層の囲碁ファンより好評を得ている。
- (4) 普及活動
 - 中部地区の囲碁愛好家からの寄付により、中部青少年普及囲碁基金を活用し、中部管内の高校生以下を中心とした青少年の囲碁普及活動の推進に努める。
 - P T A 及び地域ボランティアの協力を得て、小学校の放課後授業への導入を進める。また、中部地区の大学囲碁授業導入に向け積極的に働きかけ、広く囲碁の普及に努める。
 - 囲碁ファンの拡大のために、各県支部連合会の協力の下、愛好家参加イベントを開催し会員の拡大を図る。

II 収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

（1） 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行する。

免状は、棋力の証明となるのもので、棋力向上の励みとなるよう9級から八段までの免状を発行する。免状には、審査役である棋士の署名がなされる。

（2） 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、9級以上の免状保持者に囲碁普及指導員（S級、A級、B級）申請の権利を、六段以上の高段位免状保有者には、県師範、公認審判員を申請する権利を付与する。公認審判員の認証には、公認審判員講習の受講と書類審査を行う。

2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では1F、4F～6F部分を他法人に賃貸している。

3 販売品、書籍事業（収益事業3）

（1） 販売事業

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行う。また、全国各地でも購入できるよう、通信販売やインターネットを利用したのオンラインショップでの物品販売も実施する。

（2） 書籍製作販売

入門から高段者に向けた棋力向上の講座、問題集、読み物等の単行本を発行予定。そのほか既刊本を日本棋院各拠点の売店、全国の書店で販売する。

（3） 電子書籍

日本棋院が発行した各種紙誌（週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来）及び単行本を、電子書籍としてアマゾン社の電子書籍プラットフォーム「Kindle」にて配信する。

Ⅲ 管理部門

1 コンプライアンス

公益法人として、コンプライアンス行動規範に則り、定款による執行体制、定款及び諸規程に沿った活動に努めるとともに、透明性の向上やガバナンスの確立に注力する。

内部統制の強化については、「内部統制委員会」を中心に監査の実施及び改善取り組みを施しており、継続的に取り組み強化を図る。

2 受取寄付金の維持拡大と有効活用

受取寄付金に関して、公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受取寄付金の維持・拡大を図る。

(1) 「GO・碁・ジャパン」応援募金の継続

ナショナルチームのメンバーを再編成するとともに、ナショナルチーム応援募金によるさらなるチーム強化等を図り、「世界で勝てる日本の棋士」の育成を図り、海外棋戦における成績向上を目指す。

(2) 「がっこう囲碁普及基金」の継続と拡大

幼稚園・保育園から小・中・高校、大学への囲碁授業・講座（正課・非正課授業等）の促進に活動支援を目的とした基金を平成 27 年 4 月より募金の受付を開始。いっそうの拡大を図る。

(3) 法人賛助会員の維持・拡大。

(4) 上記以外の特定寄付金（岩本海外普及基金等）、一般寄付金。

3 「創立 100 周年事業」に向けて

日本棋院創立 90 周年にあたる 2014 年に策定した「100 周年ビジョン」の提案に基づき、「100 周年事業」を遂行してまいります。